

大倉工業株式会社 2023年12月期第2四半期決算説明会 質疑応答

Q1. 原材料価格等の動向と販売価格の方針について教えてください。(資料 P7)

- A. 昨年期初から期末にかけて原材料価格、ユーティリティ価格が急激に上昇しました。原材料価格の上昇分は、昨年未までに販売価格への転嫁がほぼ完了しました。そして、今年に入り原材料価格は下落傾向にあり、お客様から値下げ要請もあります。ただ、ユーティリティ部分や人件費上昇分も含めたコストの転嫁は完了していません。また、全ての製品で原材料部分の値上げが完了しているわけではないので、今後の価格状況を見ながら販売価格の維持、転嫁を進めていく方針です。

Q2. 合成樹脂事業で伸長している製品について教えてください。(資料 P8)

- A. 合成樹脂事業において、付加価値の高い環境貢献製品、シュリンク製品が伸びてきております。特に環境貢献製品は、CO₂削減目標を掲げているお客様から採用されることが多く、バイオポリエチレン等は前年比2桁増と大幅に増加しております。シュリンク製品では、従来製品と同等の強度を保ちつつ、厚みを2,3割減らすことでプラスチック容量を削減できる製品に注力しています。プラスチック廃棄量の削減を目的として、物流に使用されるお客様から採用いただいております。当社の強みである提案型営業により、環境貢献製品等の付加価値製品の拡販に努めてまいります。

Q3. 新規材料事業で、下期が上期比減収予想となる要因について教えてください。(資料 P22)

- A. 機能材料と光学材料のアクリルフィルムは堅調に推移すると予想していますが、スマホ・タブレット等の中小型パネル向けやアクリルフィルム以外の OEM 製品での減少傾向が続くものと考え、下期では上期比減収の予想としております。ただ、足もとでは光学材料、広幅光学フィルム(アクリル)の需要が活況であることから、想定以上の売上を確保できるよう注力してまいります。

Q4. 現時点での中期経営計画(2024)における 2024年度の業績目標達成の確度とリスクについて教えてください。(P26)

- A. 今年度の営業利益を 2021 年実績の営業利益水準に近づけることを現時点での目標としています。その目標を達成できれば、中期経営計画(2024)における 2024年度の営業利益目標 62 億円達成の確度は高くなると考えています。その達成を阻害する最も大きなリスクは中国の経済環境と認識しております。現時点での中国での生産動向、需要動向を見るには、非常に難しい状況です。今後の経済環境によっては、家電や耐久消費財の販売に影響すると考えております。

Q4. 新規材料事業の営業利益について、第1四半期 2.1億円から第2四半期 6.0 億円と増加した要因について教えてください。

- A. 自動車の生産が回復したことにより、機能材料BUのヘッドレスト用及びペイントプロテクションフィルムの需要が伸びたこと、光学材料 BU のアクリルのフィルムの需要が回復してきたことが利益増の主な要因です。

Q5. アクリルフィルムについて、業界におけるポジションと今後の動向について教えてほしい。

A. 液晶ディスプレイの表示方式 VA 方式と IPS 方式によって保護フィルムの材料は異なり、VA 方式は PET フィルム、TAC フィルムが中心で、IPS 方式ではアクリルフィルムが中心となっております。アクリルフィルムの製造は、国内では当社を含め 2 社、海外も数社競合がいる中で、当社は品質・機能面においてお客様からトップランナーとしての高い評価を頂いております。足もとではアクリルフィルムの需要が活況であり、まずはそれに対応すべく G2 ラインの早期フル稼働に注力するとともに、中長期的なアクリルフィルムの需要増の流れを捉え、確固たる地位を築いてまいります。

Q6. 中国の偏光板メーカーにおける PET フィルムとアクリルフィルムの比率と当社の対応を教えてください。

A. 現時点では、中国の偏光板メーカー大手 4 社においては、PET フィルムの比率が高いですが、PET フィルムからアクリルフィルムへの切り替えを検討しているメーカーもありますので、そのようなメーカーをターゲットとして積極的に拡販活動を推進してまいります。

Q7. 合成樹脂事業の製品構成の見直しについて詳しく教えてください。

A. 小ロット多品種で利益率が低い食品用製品や、付加価値が低く価格競争となっている製品の見直しを行い、衛生材料や詰め替え用等の非食品分野への設備転用を進め、利益率の向上を図っております。また、環境貢献製品や自動車関連製品を拡大させ、高付加価値製品の構成比率を高めている最中です。

Q8. 設備投資について教えてください。

A. 来期は、今期投資を行った設備投資について早期実績化できるよう注力していくとともに、資源循環プロジェクトや電子材料関連において、新たな投資を進める計画です。また、お客様から光学材料関連の設備増強も要請されていることから、次期中期経営計画では成長投資を中心に、現中期経営計画と同じ 250 億円規模の投資を積極的に行う方針です。

Q9. 現在取り組んでいる開発アイテムを教えてください。

A. 5G・6G 通信向けでスマホの基盤に用いられる高周波低損失フィルム (LCP) の開発を進めております。現在 LCP を採用しているスマホメーカーは 1 社のみでございます。今後 LCP を採用するメーカーの増加が見込まれる中、2026 年モデルでの採用を目標としております。その他 VR 用の精密塗工や自動車関連の塗工も進めております。

以上